

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102282
法人名	Right-hand 株式会社
事業所名	認知症の人と暮らす家 福籠 1F
所在地	鹿児島県鹿児島市田上6丁目19番3号 (電話) 099-257-2960
自己評価作成日	令和3年9月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福籠の理念「長寿、健康、徳、財、天命」を基に、入居者様が福籠で、自宅で暮らされてたように普通の暮らしを続けられる様に、キャストが黒子となり、入居者様の生活を支援しております。常にこの理念に沿って、季節の行事はもちろん、個人毎の行事・お祝いごと、地域との関わり、全てにおいて、一人一人の入居者様/ご家族様と、今までどのように暮らしていたかを一緒に考え、そしてチームで考え、企画し、実践しております。その中で、関わり方の振り返りはもちろん、認知症ケアの専門施設として、認知症の進捗の対比など、専門的アプローチも行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、鹿児島市街地に位置し高速インターやバス停があり交通の利便性は良い。近隣には、マンションや病院、飲食店や銀行などがあり、周辺の建造物に溶け込んでおり外観からはおよそ施設とは感じられない程のデザイン性の高いホームである。中庭には、木々や季節の花々が彩り、ガラス張りの外観が目を引き。2階建ての居住空間とは別に1階入口に多目的ホールがあり、利用者や家族との面談や職員の会議・交流活動に活用している。また、今後鹿児島市包括支援センターなどと協同して福籠カフェにて認知症サポーター養成研修会を予定している。

昨年2月にオープンしたばかりの新しい施設であるが、同法人の姉妹施設が宇宿地区にあり運営推進会議などを通じて相互に情報の共有やサービスの質の向上に努められるよう取り組んでいる。管理者は、感染対策を講じながら2ヵ月ごとに会議を開催し利用者の生活状況やサービスの提供状況、評価への取り組みなどを報告し話し合い、出された意見等を参考にして業務改善や質の向上につなげている。

理念は、代表者の思いが込められたものであり、重要事項説明書に掲載して契約時に利用者、家族に説明している。職員は、基本方針、運営方針とともに利用者が普通の暮らしを実践し常に主体的に物事に取り組めるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践に近づけている	福籠独自の理念を掲げており、理念をチーム全員で共有し、実践している。	ホームの理念は、開設当初から代表者の思いが込められたものであるが、施設内に掲示はせず職員の情報の発信アイテムであるパソコンから、職員のスマートフォンなどに情報発信され一人ひとりが理解し理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、廃品回収等、地域で開催されている行事に参加するなど交流を深めている。日常的には近隣のお店での買い物、新聞配達・集金、美容室の利用などで、地域とのつながりを持つようにしている。	オープン当初は、感染症の脅威もなく地域の方とも町内会の活動を通じて交流を深めていたが、現在は近隣の商店に買い物に行く、新聞の購読、訪問美容を利用するなどして地域と関わっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方々に理解していただくために、福籠カフェにて認知症サポーター講座を行う予定。（武・田上長寿あんしんセンターより）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、福籠での取り組みや現況を、写真や作成したDVDをお見せしながら報告している。参加者の皆様と意見交換を行いながら、	会議は、2ヶ月1回開催で、同法人のグループホームと合同でおこなっている。現在は、家族の参加は見合わせているが、家族には、「五福籠レター」を送りホームでの暮らしぶりを含む利用者の状況、サービス提供状況などを報告し出された意見をサービスに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告はもちろん、地域密着型サービス事業所の公募プレゼンなど、取り組み内容を積極的に伝え、協力関係を築いている。	管理者は、市役所に出向いたり電話やメールでやりとりし事業所の管理・運営について指導や助言をもらいながら相互に協力関係が築けるよう取り組んでいる。また、市から研修の案内があったり、認知症のサポートについて具体的に相談を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は、夜間のみ行い、それ以外は行っていない。身体拘束については、委員会を設置している。職員全員が拘束しないケアについて理解し、入居者様がこれまでの暮らしの継続が出来るように、取り組んでいる	職員全員が、骨伝導イヤホンを着用しており、職員同士の会話はもちろんのこと危険を察知した時、リアルタイムで職員に連絡ができる体制が構築されており、利用者の行動を抑制することなく声かけしたり、安全策を講じることができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者様へのケアについては、ミニカンファレンスにて検討し、タイムリーに解決している。虐待防止のために、キャスト同士で話し合い、ストレスを溜めないよう、コミュニケーションをこまめにとっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、福籠の考え方や取り組みをお話しした上で、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、理解、納得した上で契約を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が面会にいらした時に、意見や要望をいただいている。運営推進会議や、毎月のお便り発送時など、意見や要望を伝えやすい環境や機会作りの声掛けを行っている。</p>	<p>利用者と家族は直接の面会ができないが窓腰に本人に面談していただき、電話などで詳しく要望や意見を聴取している。家族からは、外出や外食の希望が多く聞かれ面会時には、パソコンの画像を確認してもらいながら利用者の暮らしぶりを説明している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は、キャストが相談をしやすい様、対面での相談又はメールを使用した相談を受け付けている。また、面談を定期的に行い意見を聞く機会を設け、反映に努めている。</p>	<p>代表者と職員は、半年毎に個人面談をおこなっているが、管理者は随時面談をしている。また、社内の伝達・業務連絡などは法人共通のサイトを設けており、職員への連絡や利用者状況などすべてにおいて電子媒体を返して情報を閲覧したり書き込みができる体制がありペーパーレスである。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>定期的に面談を行い、個々人の状況の把握と反映に努めている。また、様々な資格に対し、手当として反映させ、向上心の維持に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	カンファレンス時に勉強会を行ったり、積極的に外部の研修に参加している。また、研修後には報告書を作成し、全キャストが閲覧することで、情報を共有できるようにしている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県外のお施設との交流を行い、キャストの意識・技術の向上に努めている。また、各種研修等で交流を深め、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に関する相談があった際には、ご本人様に面会し話をお聞きし、ご本人様の嗜好や歴史の把握に努めている。また、入居様からは心身の状態や現在の想いを話していただき、そのようなお声かけや雰囲気作りをし、本人の想いを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学のため訪問された際、ご家族様の想いや状況、不安などに耳を傾けるようにしている。また、カフェスペースを利用し、リラックスした状況でお話を伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の意向をお聞きし、思いや状況などを確認することで、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者様と相談しながら、物事をすすめるように心掛けている。(料理の方法や行事の風習など)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診やお出かけの際には出来るだけご家族様に支援して頂いている。誕生日、地域の行事など、まずは入居者様がどうご家族様と過ごされていたかを確認し、その後の継続を普通の暮らしとして提案支援している。その後参加の呼びかけをおこなっている。また、ご本人様の状態や気がかりなことなどは直ぐにご家族様と連絡をとるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居時にご本人様・ご家族様から入居前シートに生活歴や環境などを事前に聞き取り記録を行っています。また、ご家族様や知人の方などの面会時の対話からも把握に努めて支援しています。また、ご家族様や知人の方の面会時はカフェスペースやお部屋でプライベートな空間で過ごせるように配慮をしています。馴染みの地域での商店や美容室、医療機関、温泉や朝市等も同行しています。電話や、手紙の取次なども支援している。(コロナ状況により)	携帯電話で家族などに連絡をする方が4人もおられ職員がサポートしているが、他に電話の取次ぎや手紙、書中見舞い、年賀状の代筆など支援している。職員が墓参りに同行することがあったり、行きつけの美容院に行ったりと本人の希望や要望を聞き取り行きつけの場所やこれまで続けてきた関係性が途切れることがないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様やキャスト、ご家族様が皆で過ごす時間を大切にしています。出来るだけ入居者様同士でお声掛けし、関わり合い孤立しないように支え合っているように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（実利）が終りしても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる入居者様、ご家族様に対して継続的に関わりを持って相談など快く応じ支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で日常会話、表情などを通じてご本人の思いや意思を感じ取り取るよう努めています。申送りや日々の細かい記録を常に共有化するためにパソコン、携帯を利用し図っている。	記録物の大半が電子媒体で管理され、職員は勤務外や時間帯でもリアルタイムで利用者の介護状況がパソコンやスマートフォンで確認ができる。業務遂行中は、随時スマートフォンなどから記録をしているためいつでも利用者の言動が確認できる。また、骨伝導によるインカムを着けているので、利用者とのコミュニケーションや職員同士のやりとりから本人の思いや意向が把握しやすい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前に面会し、ご本人やご家族様に、これまでの生活歴をお聞きし入居前シートに記憶をたどり書いていただく。サービス利用の経過をご本人やご家族様、サービス事業者などから情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、経過記録をもとに1人ひとりの生活リズムを把握理解するように努めキャスト間で常に情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意向や希望を聞き取り、主治医や看護からの情報を始め、カンファレンスの結果など利用者の変化に応じて、都度介護計画を作成している。	計画作成担当者は、個別の介護記録などを参考にしたり実際の介護の場面やカンファレンスなどを通じてモニタリングやアセスメントを繰り返しながら本人が主体的に暮らせるよう介護計画書を作成している。本人や家族には面談時や電話などで計画の概要を説明の上同意をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の様子やケアの実践は経過記録に残し、キャスト間で情報を共有しながら、その都度ミニカンファレンスを行い介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	キャストもその時々にかかるニーズに対して応えられる様に、人員配置や勤務日、時間の変更を行い、柔軟かつ即座に対応できるように支援やサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 地域の資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会への加入参加、医療機関との連携を保ち、直ぐに相談でき入居者様が安全に健康に暮らせるように支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人及びご家族様等の希望を大切にすることを基本とし、利用前の受診の経過を把握して、ご本人様ご家族様が希望する医療機関を受診できるように支援しています。受診はご家族様付き添いが基本ですが、必要に応じて福籠で支援している。医師、ご家族との情報交換は十分に行い、受診の結果はキャストが常に把握できるように申送りを通じて共有している。	本人、家族が希望する医療機関であり、基本的に外来受診などは家族に依頼している。主治医との面談の際必要な医療情報を1週間分まとめて書面にて情報提供しているが、必要性があれば職員が受診介助をおこなうこともある。訪問診療や訪問看護ステーションとの医療連携もあり、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 看護職員は、日々の院内ケアを通して とらえた情報や気づきを、職場内の 看護職員や訪問看護師等に伝えて相 談し、個々の利用者が適切な受診や 看護を受けられるように支援してい る	週1回、看護師が訪問し、入 居者様の情報をお伝え、適切 な受診や看護を受けられるよ うに支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治 療できるように、また、できるだけ 早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めてい る。または、そうした場合に備えて 病院関係者との関係づくりを行って いる	退院前、入院中も医療機関関 係者と情報交換を常に行い、 退院後のケアの相談、今後の 対応について密に情報を提供 して頂き役立っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共 有と支援 重度化した場合や終末期のあり方 について、早い段階から本人や家族 等と話し合いを行い、事業所でき ることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチーム で支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化や終末期に向 けた方針をご家族様にご説明をして いる。今回、終末期の入居者様につ いて看取りケアを行い、ご家族様が 不安に思っていることを聞く場を設 けて医療機関との連携が取れる様に 関係者と共にチームで取り組んでい る。	指針が整備されており、開設後の看取 りの経験はない。重度化した場合は、医 師の指導を受けて利用者や家族の希望を 踏まえ事業所ででき得る最大のケアにつ いて話し合い、指針を共有して医療、看 護・介護などの専門職、家族や関係機関 などとチームケアに取り組む体制になっ ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え て、すべての職員は応急手当や初期 対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	緊急時対応シートを作成して います。避難訓練時に応急処 置の方法、AED取り扱いにつ いて研修を定期的開催実施し ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、地域の消防団と連携を取りながら、夜間も想定した避難訓練・通報訓練を実施している。消防職によるAEDの使い方講習カンファレンス時には、救急対応の研修も実施しキャスト全員が対処法を身につけている。</p>	<p>新型コロナ感染症予防のため、消防署は立ち合いをしておらず自主訓練をおこない報告している。法人施設に消防団員がおり訓練の際は直接指導を受けたり、防火設備の点検を実施した。実際に非常食を用いた体験も実施しており、自家発電や備蓄などもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に関する事は、他の入居者様がない所で行っています。トイレ、お風呂、居室入室等プライバシーに配慮し、その人にふさわしい声掛けをするように気を付けている。(音量、トーン、内容)	入職時、新人職員に対しては、社会人としてのマナーや事業所に合った接遇研修を実施している。居住空間には、掲示物は一切していない。 インカム使用による利用者やその他の情報の共有のためのコミュニケーションについては、個人情報やプライバシーに十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や散歩などはできるだけ利用者様の希望に沿って行動できるようにしているが、キャストの勤務状況、コロナの状況により困難な場合がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴なども時間や日にちを特別に設けることはせず、皆様のご希望のお時間で暮らしをしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お洋服や身だしなみ用品（お化粧品等）も、その方の馴染みの物や、好みの物を使用されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みもお聴きしながら、料理の手順を踏まえ、基本入居者様がお料理する。見守りや必要に応じて、キャストも一緒にやっている。	メニューは、毎日利用者と職員が相談して決めている。牛乳とヨーグルトは毎朝提供し、毎回、写真を撮りパソコンにデータを残し家族との面談の折、食事の提供状況を説明する際に画像で確認してもらっている。本人の誕生日は、本人以外の入居者や職員全員が誕生日食を作りお祝いし、本人希望があれば外食や温泉を職員同伴で楽しむなど本人が主人公のイベントになっている。行事食にも力を入れており、おせち料理やそば打ちなど季節や行事に合わせ志向を凝らした食事を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事・水分量を記録し、キャストが情報共有している。個々の食事量・嚥下・咀嚼状態に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれの状態に応じて口腔ケアを行っている。基本、ご本人様で口腔ケアをされるが、必要に応じて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時の不安やプライバシーに配慮した声掛けやフォローで自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや尿取りパット着用であっても、排泄記録等を利用して排泄サイクルに合わせたトイレ案内を行っている。	排泄の声かけなどはプライバシーに十分配慮しているが、トイレ誘導をした時は、パソコンに記録を残し情報を共有するようにしている。ポータブルトイレの使用はなく、居室に洗面台、トイレを備えた部屋もある。布下着の方も多く、おむつからリハビリパンツ、布下着へと改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりに排泄記録を付けており、状態確認をして看護師や病院へ相談をして対策をしている。個々の状態に合わせて、服薬や水分補給を増やせず、ヤクルトを毎日飲む等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	入浴は、曜日や時間帯を定めず、ご本人様が入りたい時には入浴できるようにしている。	基本的には、週3回入浴介助にて入浴を楽しんでもらっているが、1階は、岩風呂風の浴室で洗い場は畳仕様、2階は、ユニットバスになっている。仲の良い友人と二人で一緒に入浴される利用者もおられ、それぞれの入浴スタイル、本人の希望を尊重して入浴が楽しめるよう支援している。誕生日に職員と一緒に温泉を楽しまれた利用者もあり、本人が主体的に自分スタイルで生活に臨めるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を定めず、ご本人様がお休みしたい時に休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにてそれぞれの薬情を管理し、薬への変更や注意点が合った場合には必ず申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの以前の暮らしや習慣を把握し、可能な限り本人様の生活を大切にしている。洗濯・料理・炊事等も得意分野で役割を担って頂き、沢山の方がチャレンジできるように声かけや環境づくりをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望により、外出やお買い物に出る機会を設けている。ご本人様の馴染みの場所や行事・イベント参加についてもお聴きし、ご家族のご協力をいただきながら外出する企画も行っている。(コロナ状況による)	感染対策に努め本人の体調や天候を見ながら、近隣の散歩や買い物などは日常的に実施している。季節の花見はドライブを兼ね実施、行きつけの美容院や墓参りに職員と外出したり、自宅訪問も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理方法についても、ご本人様・ご家族様の意見をお聴きしている。お買い物に出た際は、ご自分のお財布を持ち、お支払いまでして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎年の年賀状や暑中見舞い等作成し、手書きのメッセージや日常生活のお写真もおさめている。コロナ禍でお会いできない分、お電話にてこまめにご家族様とお話してできるようサポートしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やリビングへお庭の草花を摘んで飾ったり、各窓から見える木々や観葉植物でも季節感を感じる事が出来ている。生活に支障のある大きな音や話し声がないよう、キャスト同士はBONXを駆使してケアを行っている。	玄関前には、季節の花々や植樹がされ各窓からは木々が視線に入り室内にも観葉植物が配置されており利用者の気持ちを和ませてくれている。対面キッチン、業務用冷蔵庫、ソファ、テレビなどがあり、ソーシャルディスタンスを取り換気や消毒などを定期的実施しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな時間に仲の良い入居者様とお茶をして談笑したりお一人でのんびり過ごしたりできるように、カフェやリビング、ソファなどご自由に使う事ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様へこれまでの暮らしをお聴きし、使用されていた家具や物、馴染みのものをお使いいただいている。家具の配置等もご本人様、ご家族様の意向により設置している。	電動ベッドが各部屋に配置され、2部屋はトイレが完備されている。本人が使い慣れたものを持ち込み入居前の生活環境や安全に配慮して自立した生活が送れるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内のエレベーターや内階段の設置により、その人の状況に応じて1・2階それぞれのユニットを行き来できる。各廊下や階段にも手の届く低めの高さの手すりが設置されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない